愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】音楽表現技術		
担当者(Instructors)	矢内 淑子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	1	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本演習では、1年生で培った音楽的表現技術を確かなものにするだけでなく、ピアノを使用した子どもの歌の弾き歌いを中心に学び、レパートリーを増やす。子どもの発達に即した感性を育むような教材を選択しながら、子どもの歌の楽曲や歌詞を理解し、無伴奏による歌唱を徹底した後、ピアノ伴奏の弾き歌いを行う。教材は、「子どものうた」「伴奏教則本」を使用し、暗譜で弾けるようにする。学習形態は、個人レッスン及びグループレッスンを併用する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で行う。授業内容に応じて、個人レッスン、グループレッスン、グループワークを取り入れている。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション、ピアノ伴奏・歌唱の意義	講義の概略、進め方、注意事項（受講ルール、教室、電子楽器の使い方）、弾き歌いの課題について説明をする。グループに分かれて、子どもの歌を歌う。	□
第2回	発声・歌唱と弾き歌い（１）行事の歌、伴奏法	歌声の素晴らしさ、声のでる仕組みを伝える。発声の三要素のうち「姿勢」について学ぶ。指定された「行事の歌」を歌唱する。ピアノ進度に合わせた伴奏形で弾き歌いする。	□
第3回	発声・歌唱と弾き歌い（２）生活の歌、伴奏法	発声の三要素のうち「呼吸」について学ぶ。指定された「生活の歌」を歌唱する。ピアノ進度に合わせた伴奏形で弾き歌いをする。	□
第4回	発声・歌唱と弾き歌い（３）季節の歌、伴奏法	発声の三要素のうち「共鳴」について学ぶ。指定された「季節の歌」を歌唱する。ピアノ進度に合わせた伴奏形で弾き歌いをする。	□
第5回	発声・歌唱と弾き歌い（４）いろいろな歌、伴奏法	発声の三要素の「姿勢・呼吸・共鳴」について復習する。指定された「いろいろな歌」を歌唱する。ピアノの進度に合わせた伴奏形で弾き歌いをする。	□
第6回	発声・歌唱と弾き歌い（５）実習園の課題、伴奏法	「姿勢・呼吸・共鳴」を意識した発声練習をする。実習園から出された課題曲を練習する。ピアノの進度に合わせた伴奏形で弾き歌いをする。	□
第7回	発声・歌唱と弾き歌い（６）実習園の課題、子どもを意識した弾き方	「姿勢・呼吸・共鳴」を意識した発声練習をする。実習園から出された課題曲を練習する。子どもを意識した弾き方を学ぶ。	□
第8回	クラス内発表会	歌2曲、弾き歌い2曲をクラス内で発表する。	□
第9回	発声・歌唱と弾き歌い（７）自由曲：歌詞の理解	レガート唱法を取り入れた発声を学ぶ。課題曲の中から自由選択した曲を弾き歌いする。その際、歌詞の理解に重きを置いた練習をする。	□
第10回	発声・歌唱と弾き歌い（８）自由曲：楽譜・楽曲の理解	スタッカーと唱法を取り入れた発声を学ぶ。課題曲の中から自由選択した曲を弾き歌いする。その際、楽譜・楽曲の理解に重きを置いた練習をする。	□
第11回	発声・歌唱と弾き歌い（９）自由曲・日本語の歌唱法	跳躍唱法を取り入れた発声を学ぶ。課題曲の中から自由選択した曲を弾き歌いする。その際、日本語の発音に重きを置いた練習をする。	□
第12回	発声・歌唱と弾き歌い（10）自由曲：伴奏法	音域を広げる唱法を取り入れた発声を学ぶ。課題曲の中から自由選択した曲を弾き歌いする。その際、伴奏法に重きを置いた練習をする。	□
第13回	身体表現のためのピアノ伴奏（１）基本的動きとリズム	身体表現のための伴奏法を学ぶ。具体的には。基本的動き（歩く、ゆっくり歩く、走る、スキップ、ギャロップ、ワルツ）などの伴奏法を学ぶ。	□

第14回	身体表現のためのピアノ伴奏（２）変奏と応用	身体表現のための伴奏法を学ぶ。13. で学んだ伴奏法を子どもの歌で応用することで、子どもの表現活動を引き出す伴奏法を学ぶ。	□
第15回	最終発表会、まとめ	歌2曲、弾き歌い2曲を最終発表して、まとめとする。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

子どもの歌の弾き歌い・歌唱練習は、予習・復習が極めて重要である。事前学習としては、子どもの歌の歌詞や楽曲を理解した後、歌唱・弾き歌いの練習を行う（１時間）。初心者は、旋律を弾きながら言葉の抑揚とメロディーの流れに注意しながら、暗譜で歌えるようにしたのち、ピアノ伴奏を練習して合わせる作業を丁寧に行う。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

クラス内発表（弾き歌い・歌唱）は、その時間に全体で課題を共有し、音楽能力の育成につなげる。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 2018子ども発達DP1	子どもたちの音楽的表現を援助するための基礎を習得することができる。
	◇ 2018子ども発達DP3	子どもの音楽的表現遊びを豊かにすることができるように、子どもの発達に適した教材を選択し、表現できるような技術を習得することができる。 保育内容を理解し、音楽指導するための基本的な感性を養う。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	100%	0%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

子どもの歌のクラス内発表（弾き歌い・歌唱）は、クラスで課題を共有し、音楽能力の育成に繋げる。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	小林美実『こどものうた200』チャイルド本社	9784805481004
2	必要に応じて資料を配布する。	
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	小林美実『続こどものうた200』チャイルド本社	9784805400029
2		
3		
4		
5		